再評価項目調書

	再記	平価実施要件	● 事業採択後(10 年) ○ 再評価後(年) ○ その他()							
		事 業 名	豊田地区 県営老朽ため池整備事業							
		事業場所	下関市豊田町							
		事 業 主 体	山口県							
		事業期間	《前回評価 平成 27 年 時》 平成 27 年度 ~ 令和 8 年度 《令和 6 年度》 (西暦 2015年度 ~ 西暦 2026年度 《西暦 2024年度》)							
		総事業費(内用地補償費)	《 514 百万円》 既投資額 951 百万円 進捗率 99 % (- 百万円) (内用地補償費) (- 百万円) (用地補償費) (- %)							
1 事業概要		事業目的	下関市豊田地域には大小あわせ200箇所余りの農業用ため池があり、下関市豊田地域の田をかんがいする重要な用水源となっている。このうち、本事業により改修を進めている3箇所のため池は、老朽化によって堤体の侵が進んでおり、漏水箇所も多い状況である。また、洪水吐の断面が不足しているため、集豪雨等でため池の水位が上昇すると、漏水の拡大や、堤頂からの越流による堤体の決壊力念される。本地区のため池が決壊すると、下流域の農地、人家及び公共施設等への被害はけられない。このため、本事業により、ため池を整備し、豪雨等への対策と農業用水の確を一体的に進めるものである。							
		事業内容	 ため池整備 3か所 今道上 : 堤体工(H= 8.4m、L=62.0m)、洪水吐工、取水施設工 弁財天堤: 堤体工(H= 8.3m、L=26.4m)、洪水吐工、取水施設工 田代 : 堤体工(H=10.4m、L=115.9m)、洪水吐工、取水施設工 							
		事業効果	・維持管理費節減効果 施設の新設や更新によって維持管理費が増減する効果 ・災害防止効果 ため池の災害を防ぐことで、農業関係資産や一般資産、公共資産等の被害が防止・軽減する効果							
	(1)社会経済情勢の変化		・短時間強雨(1時間降水量50mm以上)の発生回数が増加傾向にある。 具体的には、平均年間発生回数が、1976年~1985年(S51~S60) の約226回から、直近10年間の2013年~2022年(H25~R4)の約 328回へと約1,5倍に増加している。							
2再評価の視点		社会経済情勢 の変化に伴う 必要性の変化	・一方、降水日数は減少傾向にある。具体的には、日降水量1.0mm以上の年間日数は、1901年~1930年(M34~S5)の約125日から、直近30年間の1993年~2022年(H5~R4)の約116日へと約0.9倍に減少している。 ・気象変動の影響と考えられ、今後、短時間強雨の増加、降水日数減少の傾向が強まり、洪水、渇水ともにリスクが高まっていくおそれがある。 ・本事業は、老朽化したため池を整備することで、洪水や渇水のリスクに対応するものであり、必要性は高まっている。							
		関係市町及び 地 元 の 意 向	〈地元の意向〉・防災面では、老朽化が進み、豪雨等による決壊が懸念されるため、早期整備を望んでいる。・営農面でも、ため池の整備による安定した水源確保を望んでいる。(ため池の受益地はいずれもほ場整備した農地である) 〈市の意向〉・県、市等で構成されるため池対策推進会議において、関係機関連携の下でため池の防災減災対策に取り組んでおり、本事業の継続を望んでいる。							

(2											
(2				単位:百万円 大項目							
全体事業 全体事業 全体事業 会体事業 会体事業 会体事業 会体事業 会体事業 会体事業 会体事業 会				区分	主な項目					評価	
(2 2) 事業									+		
② 2 日					①維持管理費節減効果					-	
###		_			②災害防止効果(農業関係資産	591.4	1,455.7	690.3			
日		2									
### ### #############################					④災害防止効果(公共資産)	421.5	1,383.1	590.1		_	
の 投		業の投資効		(B)						I II	
関係										$\overline{}$	
□ 日本					総便益	1,050,4	2,929.4	1,275,4			
対				弗田	①事業費	409.6		819.3			
東京					0 4 1 0				関連事業費+再整備	÷ 5	
【費用対効果分析手法】 ○新たな土地改良の効果算定マニュアル(平成26年9月:農林水産省農村振興 ・ 今道上池と弁財天提池の整備は完了している。 ・ 現在、田代池の整備を進めている(令和8年度完了予定)。 事業の進捗と ・ 資化の見通し 「事業期間の変化】 有 無 完了年度:R6 → R8 [理由] 豪雨で工事現慮が被災したため。 ・ 現在、田代池の整備を進めている(令和8年度完了予定)。 「事業期間の変化】 有 無 完了年度:R6 → R8 [理由] 豪雨で工事現慮が被災したため。 ・ 現本の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 採用し、土工量の総減を図った ・ 本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが 妥当である。 ・ 本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが 妥当である。 ・ 本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが 妥当である。 ・ 本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが 日前日		果			1.0.2 41.0					→ '	
○新たな土地改良の効果算定マニュアル(平成26年9月:農林水産省農村振興 「会議上池と弁財天堤池の整備は完了している。・現在、田代池の整備を進めている(令和8年度完了予定)。					食用便益比(B/C)	2.11	2.07	1.53		<u> </u>	
○新たな土地改良の効果算定マニュアル(平成26年9月:農林水産省農村振興 「会議上池と弁財天堤池の整備は完了している。・現在、田代池の整備を進めている(令和8年度完了予定)。				r							
周) 一方道上池と弁財天堤池の整備は完了している。											
2											
評価の現点 (3) 事業の進捗と 今後の見通し 「事業 期間の変化」 (4) コスト 縮 減 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・											
評価の現点	2										
一	再										
の	評価									大項目	
現点 3 事業の進捗と 今後の見通し 「事業量の変化」 有 無 完了年度: R6 → R8 [理由]豪雨で工事現場が被災したため。 (4) 代替 案 ・退体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 評価 原理 価 2 b 体 2 p p p p p p p p p p p p p p p p p p				・今道上池と弁財天堤池の整備は完了している。 ・現在、田代池の整備を進めている(令和8年度完了予定)。							
点 3 事業の進捗と 今後の見通し [事業量の変化] 有 無	視										
3	点	$\overline{}$									
事業の進捗と 字数の見通し		[3]									
# 今後の見通し [事業量の変化] 有 無			±*** 6\\\								
の進		争		「東業皇の亦化」 ち 無							
 進捗 【事業期間の変化】 (看) 無 完了年度:R6 → R8 [理由]豪雨で工事現場が被災したため。 ・堤体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を採用し、土工量の縮減を図った (4) 八替案籍簿の可能性 ・本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画どおり進めることが妥当である。 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 ・ 工事期間でも、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 ・ 工事期間では、 ○ 見直し継続 ○ 中止 ・ 短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるためには、ため池の整備が必要であるため。 			ノ及り元旭し	【争耒里の发化】 有 無							
【事業期間の変化】 (目) 無 完了年度:R6 → R8 [理由] 豪雨で工事現場が被災したため。 ・堤体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 採用し、土工量の縮減を図った ・本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが 妥当である。 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 ・本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画とおり進めることが ・ 中項目 評価		進									
完了年度:R6 → R8 [理由]豪雨で工事現場が被災したため。 - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・				完了年度: R6 → R8							
[理由] 豪雨で工事現場が被災したため。 - 「提体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を探用し、土工量の縮減を図った - 「提体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を探用し、土工量の縮減を図った - 「本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画どおり進めることが 要当である。 - 「本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画どおり進めることが 要・											
・提体の改修に当たっては、旧ため池の提体形状等を活かした改修工法を 中項目 採用し、土工量の縮減を図った 中項目 採用し、土工量の縮減を図った 中項目 評 価 中項目 評 価 中項目 評 価 中項目 評 価 日本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画どおり進めることが 日本事業 日本事業 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。 総 合 評 価 ● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止 ・短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるためには、ため池の整備が必要であるため。 ・ 短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるためには、ため池の整備が必要であるため。											
・提体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 評価 評価 採用し、土工量の縮減を図った											
・提体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 評価 評価 採用し、土工量の縮減を図った											
・提体の改修に当たっては、旧ため池の堤体形状等を活かした改修工法を 評価 評価 採用し、土工量の縮減を図った		$\widehat{}$									
コスト縮減 採用し、土工量の縮減を図った a b A P 中項目 I		4									
スト総等の可能性		一代	コスト縮減								
大条線		ラ替		3214713						a) b (A)	
で		ト糸									
(縮等		中項目 B							
能性		減の	分	・本事業は、令和8年度の完成を予定しており、計画どおり進めることが							
性 で											
3 環境 配慮事項 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。		性									
環境 配慮事項 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。		, ,_									
環境 配慮事項 ・工事期間中も、ため池内に浅い水域を確保し、水生動物に配慮する。		3									
(事業 4 実 が 施 主 体 か		環	配慮事項	• I	事期間中も、ため池	内に浅い水域を	確保し、水気	上動物に配成	慮する。		
事業4 業 実		境									
事 業 4 業 対 実 前 施 恵 ・ 短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるためには、ため池の整備が必要であるため。	<u> </u>										
事 業 4 業 対 実 前 施 恵 ・ 短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるためには、ため池の整備が必要であるため。			総合評価		● 継続	○ 見直し継	続	ОФІН			
4 業			<u> </u>		- 445450		.12 d	· · ·			
・短時間強雨の増加による洪水リスクや、降水日数の減少による渇水リスクに備えるために が 注 方 体 針 案 備 考	1	業									
Ca	4	実	証 価 珥 由	• 短	時間強雨の増加によ	る洪水リスクや、	、降水日数0	の減少による	る渇水リスクに	備えるために	
方 土 針 案 備 考	加	施	可巡娃田	は、ため池の整備が必要であるため。							
針 案	方	主									
	針	14 字									
	₹		備考								

